

実り豊かな生活文化都市

2021
(令和3年)



広報

ちゅうおう

2

No.180



よいしょ!

よいしょ!

特集 中央市制施行15周年
特集 確定申告はお早めに

田富第一保育園お正月遊びの様子(詳細21ページ)



—中央市制施行15周年—

huo city

15th ANNIVERSARY

平成29年 11月 ・市公式Instagram開設

平成30年 3月 ・市公式ホームページをリニューアル。市公式Twitter・フェイスブック・ラインアカウント開設

3月 ・道の駅とよみ20周年記念感謝祭が開催
4月 ・第1回「桃と桜のサイクリング〜リニアライドやまなし中央〜」開催

6月 ・「第1回スイートコーンマラソン&ウォーク」開催



桃と桜のサイクリング



スイートコーンマラソン&ウォーク

11月 ・「中央市立玉穂生涯学習館」開館20周年

平成31年 3月 農村公園の人工芝グラウンド完成

令和元年 5月 ・「中央市役所本館」完成



6月 ・「中央市学校給食センター」完成

令和2年 1月 ・市役所南館の大規模改修工事が完了。1本庁舎2支所体制で業務を開始

・中央市・昭和三町障がい者相談支援センター「穂のか」市役所本館北側へ移転

3月 ・「中央市新型コロナウイルス感染症対策本部」設置

5月 ・中央市・昭和三町の不登校の児童・生徒の自立心を養うための教育支援センター「にじいろ教室」開所

12月 ・リニア中央新幹線建設に伴い解体される、田富市民体育館の施設開放イベントが開催



令和3年 2月 ・市制15周年記念式典挙行

中央市は、平成18年に玉穂町、田富町、豊富村の3町村の合併により誕生し、令和3年2月20日に市制施行15周年を迎えます。これまでの間、市民の皆様をはじめ、関係者の皆様には、市政運営に対し格別のご理解とご協力を賜りましたことを、心より感謝申し上げます。

この15年間、3町村の融和、一体感の醸成を図るために、それぞれの地域の歴史、文化、伝統を尊重して特徴を活かしながら、バランスの取れたまちづくりに取り組んできました。ハード・ソフト両面において、一つひとつの事業を積み上げてきたことにより、目指すべき「中央市像」に少しずつではありますが、近づいているのではないかと感じています。

その成果の一つとして、全国の都市を対象に毎年公表されている東洋経済新報社の「住みよさランキング2020」において、総合評価部門で全国66位、山梨県において1位と高い評価を得ることができました。よりよいまちづくりに向け一歩ずつ着実に進んでいるものと思っております。

一方で中央市は本格的な人口減少や少子高齢化の進行など大きな変革期を迎えています。また、社会保障改革や財政改革、頻発する自然災害の対応や景気対策などさまざまな課題を抱えています。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、かつてない難局に直面している状況です。

コロナ禍は、私たちの今までの生活を一変させ、新たな生活様式、新たな価値観への転換を加速させています。今こそ「ウィズコロナ」「アフターコロナ」の時代を見据えたまちづくりが求められています。今後も、市民の皆様の生命と暮らしを守り、事業者の皆様の経済活動を支援するため、各種施策を実施していきます。

これまでの15年の歩みをしっかりと踏まえつつ、今後も安全で安心して暮らせるまちづくりを継続していくと共に、新たな飛躍に向け、誰もが住みたく、住んでよかったと思えるまち「美り豊かな生活文化都市」の実現に向け、全力で取り組んでいきます。

中央市制施行15周年を迎えて 市長あいさつ



中央市長
田中 久雄

中央市15年のあゆみ

平成18年2月20日に玉穂町、田富町、豊富村が合併し誕生した中央市。地域独自の魅力を活かし、まちづくりの将来像「実り豊かな生活文化都市」の実現に向けて、一歩ずつ着実に歩んできました。

平成18年 2月	・玉穂町、田富町、豊富村が合併し、中央市が誕生
4月	・初代中央市長に田中久雄氏当選
5月	・農産物直売所「た・から」オープン
12月	・市章、市の花・木・鳥を制定
平成19年 4月	・「豊富図書館」開館
6月	・「つどいの広場 笑(えみ)」開設
平成20年 6月	・ファミリーサポートセンター「みらいサポート・ちゅうおう」開設
平成21年 3月	・新山梨環状道路南部区間開通
10月	・道の駅とよとみが「直売所甲子園2009」初代グラウンドチャンピオンを獲得
平成22年 2月	・市立図書館3館が人口3万人未満の自治体の中で貸出冊数、蔵書冊数、図書購入費が全国1位になる
平成23年 2月	・市制5周年記念式典挙行、市民憲章を制定
平成24年 5月	・中央市・昭和町障がい者相談支援センター「穂のか」開所
平成25年 11月	・第28回国民文化祭「富士の国やまなし国文祭」中央市主催事業開催
平成26年 11月	・中央市ブランド米「富穂」が第46回山日YBS農業賞の奨励賞受賞



平成27年 3月	・とまチュウバス誕生
10月	・市制施行10周年記念事業NHKラジオ公開収録開催
平成28年 2月	・市制10周年記念式典挙行
5月	・農産物直売所「た・から」10周年創業祭開催
6月	・「中央市山梨県人会」設立
11月	・豊富郷土資料館の来場者数が15万人を突破
	・「第1回中央市ふるさとまつり」開催
12月	・「中央市スポーツ栄誉大賞」を新設し、2016卓球女子ワールドカップで日本人として初優勝した平野美宇選手に贈呈
平成29年 6月	・平野美宇選手が出場する世界卓球2017のパブリックビューイングを母校の田富北小学校で開催



中央市の皆様、市制施行15周年おめでとうございます。はじめに、新型コロナウイルス感染症拡大の中、社会を支えてくださっている皆様に深く感謝申し上げます。

私は母の故郷の静岡県沼津市で生まれ、2歳になる頃から父の故郷である中央市(当時の田富町)で暮らすようになりました。小さい頃は、玉穂や田富の図書館のおはなし会へ行くのが楽しみでした。また、公園が好きでいろいろな公園で時を忘れて遊びました。特にシルクの里公園のトランポリンが大好きでした。

私の卓球選手としての原点は中央市にあります。初めての卓球の試合は田富町の大会でした。顔が卓球台からやと出るくらいの背丈で、ラケットを頭の上で振る感じでしたが、相手の方が打ちやすいところにボールを送ってくれたのでラリーが続ぎ、すごく盛り上がったと父や母から聞いています。

中央市制施行15周年へのメッセージ



東京2020オリンピック
卓球女子団体出場内定
平野 美宇さん
(日本生命)

を掛けている自分像を作ったことを覚えていてます。恩師の先生や友人たちは今でも私を励まし続けてくれています。

また、ぶどうや桃は私の好物で、地元で獲れたお米や新鮮なトマト、トウモロコシも大好きです。それがアスリートとしての私の身体的基础を作ってくれたと思います。

中学校入学を機に中央市を離れましたが、今でも大会で好成績を挙げるたびに懸垂幕を掲げて祝福してくれます。世界選手権で準決勝に進んだ際は、パブリックビューイングで大勢の方に応援していただき、メダル獲得への大きな力となりました。中央市の方々の声援がいつも私の背中を押してくれています。

私は東京2020オリンピックの卓球女子団体戦に出場します。新型コロナウイルスのパンデミックを乗り越えて開催されることに感謝し、皆様に勇気と感動を与えられる戦いをして、必ず金メダルを勝ち取りたいと思います。

最後に、中央市が未長く発展し続けていくことを心よりお祈り申し上げます。